

# 第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成23年10月28日(金)6校時  
生徒 1年2組 男子14名 女子11名 計25名  
指導者 菊地 純(北松園中学校)

## 「読むこと」の指導事項

- ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。
- ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

## 〈この単元で身に付けたい力〉

- ・文学作品の情景や心情を描写した表現を読み深め、登場人物の心情を理解する力

- 1 **単元名** 自分を見つめる  
**教材名** 「少年の日の思い出」

## 2 生徒と単元について

### (1) 教材について

本単元は「文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。」(読むこと ア)「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」(読むこと ウ)を主なねらいとする。

本教材「少年の日の思い出」は、不完全ではあるが額縁構造を持ち、作中場面から過去の回想場面へと移り変わる。作中場面は回想場面の伏線ともなっており、額縁構造がより効果的に主題を表現する方法となっている。また、回想場面では2人の人物が対照的に描かれ、両者のものの見方、考え方の違い、心情の変化などが、美しい情景描写とともに繊細に描かれている。その中で、特にも2人の少年のちょうの扱い方にみられるようなものの見方、感じ方、生き方の違い、2人が互いをどう見ているか、その見方の違いに気付かせたい。さらに2人の間の出来事を通して彼らにどのような変化が生じているかをとらえさせ、2人のすれ違いの中で、心情に変化が生じていることを優れた文章表現に注目させながら読み取らせたい。

小学校との関連では、小学校5・6年「自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。」(読むこと ア)「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」(読むこと エ)を受けるものである。

国語では、小学校から中学校まで、系統的に文学的文章の教材が組み込まれており、登場人物の心情もより複雑で興味深い内容となっている。小学校で習得した、人物の相互関係や心情を読み取る力を基盤とし、登場人物の心情を揺り動かす出来事や人物の性格を読み取るだけでなく、人物の根底にあって、人物の心情を支えているものの見方や考え方をとらえさせることで、内容の理解がより深まっていくと考える。

### (2) 生徒について

これまで、生徒たちは「にじの見える橋」「麦わら帽子」「大人になれなかった弟たちに……」の文学的文章の授業を通して、人物の動作や表情の描写、人物を取り巻く情景の描写などの表現に着目して人物の心情を読みとる学習を進めてきた。特に小集団での活動では活発に発表し合い、自分たちの力で確実に内容を読み取ろうとする姿勢が感じられる。

反面、全体の場合となると、間違えることを恐れ、自分の考えに自信がもてず、積極的に発言をしようとする生徒が少なくなってしまう。批判されることに対しても非常に敏感である。そのため、考えをまとめる準備の時間を保障する、周囲の生徒と話し合う時間を設けて自分の考えを補完させる、小集団の中で発表し合うことで抵抗感を和らげるなど、積極的に自分の考えを発表できるような手立てを取り入れていく必要がある。そして、お互いの意見を共感的に取り入れる活動を通して、自分の意見が生かされる喜びを感じさせながら、自分の読みを深めさせていきたい。

(3) 指導にあたって

小学校5年生では「大造じいさんとガン」、小学校6年生では「やまなし」と、本格的な文学の教材に取り組み、登場人物の行動や場面の様子に注目して、人物の心情の変化を読み取ったり、人物像について話し合いを行ったりして、読みを深める学習に取り組んできた。このような小学校での学習を踏まえて、文学作品の情景や心情を描写した表現を読み深め、登場人物の心情を理解する学習に取り組んでいきたい。

学習に前向きに取り組む学級の雰囲気大切にしながら、自分が読み取った人物の心情を、語彙や叙述を根拠として積極的に語らせ、それを交流し、互いに学び合わせたい。また、語られた意見のどの部分に共感するのか、納得できるのかなどを考えさせることで、さらに自分の見方・考え方を深めさせたい。人物の描写や情景の描写が、どのように作品の展開に関わっていくのかを考えさせることで、作者の巧みな場面構成と繊細な表現、豊かな語彙に注目させ、文学を読むことの面白さを味わわせたい。

3 単元の目標

- (1) 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、人物の思いや体験の深さを理解しようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- (2) 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解することができる。 【読むこと ア】
- (3) 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができる。 【読むこと ウ】
- (4) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くことができる 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(イ)】
- (5) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ウ)】

4 学習指導計画及び評価規準(8時間)

	学習内容と 主な学習活動	評価規準			言語活動を通して考える力を育成する活動
		国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能	
第一次 2時間	○学習の見通しをもつ。 ・作品を通読し、内容をとらえ感想をもつ。 ・漢字や語句の確認をする。 ・文章の展開や構成をとらえる。  2時間	・作品を読んで自分なりに感想をまとめようとしている。		・漢字や語句について理解している。	・感想を書いたり、発表したりする活動
第二次	○前半部の役割やその意味を考える。 ・客が思い出を語り始めた理由を叙述に即して考える。  1時間(本時)	・客が思い出を語り始めた理由を考えようとしている。	・客が思い出を語り始めた理由を叙述に即して考え、自分の言葉でまとめている。	・作中で用いられている表現上の工夫や様々な語句について理解している。	・自分が読み取った人物の心情を語彙や叙述に即して話し合う活動
	○後半部を読み、登場人物の人物像を読み取る。 ・主人公の人柄や、エーミールに対する思いを読み取る。  1時間	・主人公の人柄やエーミールに対する思いを読み取る。	・主人公のちょうに対する熱情を読み取っている。 ・主人公がエーミールに対して抱いていた思いをとらえている。		・後半部の内容を叙述に即して読み取る活動

3時間	○後半部を読み、主人公の心情の変化を、読み取る。 ・クジャクヤママユを盗んでしまう主人公の気持ちの動きを理解する。  1時間	・クジャクヤママユを盗んでしまう主人公の気持ちの動きを理解しようとしている。	・クジャクヤママユに対する主人公の強い思いを読み取っている。 ・時間・場所・出来事に着目し、主人公の気持ちの移り変わりを読み取っている。	・後半部の内容を叙述に即して読み取る活動
第三次	○登場人物のものの見方や考え方を通して比較して、両者の立場やのものの見方や考え方をつかむ。 ・主人公がエーメールに伝えなかったことを理解し、それが伝わらなかった理由を叙述に即して考える。  1時間	・主人公がエーメールに伝えなかったことをとらえようとしている。	・主人公がエーメールに伝えなかったことを理解し、それが伝わらなかった理由を考えている。	・自分が読み取った人物の心情を語彙や叙述に即して話し合う活動
3時間	○主人公が自分のちょうをつぶした理由を考える。 ・作品全体を振り返り、客が思い出を語った理由を再び考える。  2時間	・主人公が自分のちょうをつぶした理由を考えようとしている。	・主人公が自分の少年時代の出来事とどのように向き合ってきたのか、また、ここで友人に語る気持ちになった理由について自分なりの考えを持っている。	・話し合った内容を元に自分の言葉でまとめる活動

## 5 本時の指導

### (1) ねらい

〈国語への関心・意欲・態度〉

「客」の心情を叙述に即して読み取ろうとする。

〈読むこと〉

「客」がちょうを見て抱いた思いを叙述に即して読み取り、少年時代の思い出を語り始める理由を考えることができる。

### (2) 具体の評価規準

観点別評価目標	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C 支援の手立て
「客」がちょうを見て抱いた思いを叙述に即して読み取り、少年時代の思い出を語り始める理由を考えている。	「客」が思い出を語り始める理由を、会話文やしぐさ、友人との関係などのほか、時間や場所などの情景描写と関連付けて考えている。	「客」が思い出を語り始める理由を、会話文やしぐさ、友人との関係などと関連付けて考えている。	板書を手がかりに、思い出を語り始める「客」の様子を振り返らせる。

### (3) 「考える力」の育成のための手立て

【考える力の育成にかかわる身につけたい力】

- ・文学作品の情景や心情を描写した表現を読み深め、登場人物の心情を理解する力

【考える力を育成するための言語活動】

「客」はどうしてここで、自分の少年時代の出来事について友人に語る気になったのか、自分が読み取った人物の心情を、叙述を根拠として話し合う活動。

(4) 展開

過程	学習内容と学習活動		指導上の留意点・評価 (・留意点 ※評価)
導 入	<p>1 前時の学習活動を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「客」はどうしてここで、自分の少年時代の出来事について友人に語る気になったのだろう。</p> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょうの収集を見た客が抱いた感慨を確認する。</li> <li>・ちょうに関わる思い出が、「客」にとって不愉快なものであることを確認し、本時の課題につなげる。</li> <li>・「客」がなぜ、不愉快な思い出であるにも関わらず、少年時代の出来事について友人に語る気になったのか、自分の考えをまとめ、考えを交流することを確認する。</li> </ul>
展 開	<p>3 学習課題を解決する。</p> <p>(1)前半部を黙読する。</p> <p>(2)線を引いたところを根拠にして、「客」はどうして自分の少年時代の出来事について友人に語る気になったのかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(3)「客」はどうしてここで、自分の少年時代の出来事について友人に語る気になったのかをグループで考えを交流する。</p> </div>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈会話〉〈行動・仕草〉〈情景描写〉の3つの視点を与え、客の心情が分かる表現に線を引かせる。</li> <li>・〈会話〉〈行動・仕草〉〈情景描写〉の叙述から、「客」がどうして少年時代の出来事について友人に語る気になったのかを推測させたい。</li> </ul>
	<p>(4)話し合った内容を全体に発表する。</p> <p>4 学習課題のまとめ</p> <p>(1)なぜ自分の思い出を語る気になったのかをまとめる。</p>	5  10  5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの代表が発表する。</li> <li>・交流した考えを全て発表する。</li> <li>※「客」が思い出を語り始める理由を、会話文やしぐさ、友人との関係などのほか、時間や場所などの情景描写と関連付けて考えているか。</li> <li>・「客」の会話文として本文中に挿入できるように百字以内で書かせる。</li> <li>※話し合ったことや発表されたことを基に、自分の言葉でまとめているか。</li> </ul>

展 開	(2)書いた文章を発表する。  (3)前半部を音読する。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「客」の思い出を語る気になった気持ちが伝わるように意識して発表する。</li> <li>・「客」の気持ちを思い起こしながら、音読をする。</li> </ul>
終 末	5 次時への見通しをもつ。  6 今日の学習を振り返り，自己評価カードを記入する。	3	※今日の学習を振り返って評価しているか。

## 6 板書計画

少年の日の思い出  
ヘルマン・ヘッセ  
高橋 健二訳

「客」はどうしてここで、自分の少年時代の出来事について友人に語る気になったのだろう。

〈「客」のちように対する思い〉

- ・ 大切なもの
- ・ 美しいもの
- ・ 少年時代を象徴するもの
- ・ 熱情

← 「妙なものだ」

○自分でその思い出を汚してしまったから  
○思い出したくないのにちようを見るとよみがえってくるから

〈思い出を語り始めた理由〉

- ・ 思い出がつよくよみがえってきた
- ・ 友達が信頼できる
- ・ 落ち着いた雰囲気がある
- ・ 自分の非礼の謝罪と説明